

インテグリティ委員会の方向性

STEP1 喫緊の課題対応

各団体・セクションで検討し委員会にて集約

JBA最優先課題「暴力暴言根絶」

2012年12月 桜宮高校バスケット部事件

JBA対応

2013年4月 登録指導者に対してアンケートの実施

2013年6月 注意喚起、嚴重注意処分等決定

ところが

体罰事案件数

高体連（体罰認定件数：2014年以降）

2014年（5/12①） 2015年（6/36②） 2016年（6/36②）

2017年（4/41④） 2018年10月末現在（6/24①）

27/149（18%）全競技で一番多い

日本スポーツ協会（相談件数：2014年度以降）

60/315（19%）全競技で一番多い

STEP2 中期的対応

各団体・セクションで

業務内容・業務分担に応じた

課題を検討し

委員会にて集約

STEP3 長期的目標

インテグリティの精神を身に付けた人材の育成

人間力（プレイヤー）→指導力（プレイヤーの育成・強化）→組織力（運営）

JBAとしての喫緊課題「暴力暴言根絶」に向けての対応

①メッセージの発信

**クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム
～暴力暴言根絶～**

○主題（JBA、トップリーグ・団体共通） 「クリーンバスケット、クリーンザゲーム」

クリーンバスケット・・・バスケットファミリー全員の協力によりバスケットの価値を高める

→**オフコートでのあり方**

クリーンザゲーム・・・試合に関わる選手、コーチ、審判全ての協力で試合の価値を

高める→**オンコートでのあり方**

○副題（各団体で設定） JBAは「暴力暴言根絶」

会場にバナーの貼付、プログラムへの掲載

第1回インテグリティ委員会開催（2019年1月28日）

②試合中における暴力的行為および暴言に対する対応

**選手に対する暴力的行為および暴言は
テクニカルファウル（C）の対象とする**

競技規則およびガイドラインにおいてもテクニカルファウルとすることに問題はない

競技規則に則りテクニカルファウル2個で失格退場

失格退場に対しては、規律案件とはせず、当該試合のみの対応とする。
ミニルール（U12）にはテクニカルによる失格退場が現段階でないため変更予定

**3月開催、Jr All Starおよび全国ミニで先行実施
4月から、全国で実施**

第1回インテグリティ委員会開催（2019年1月28日）

③今後の進め方

暴力的行為および暴言の事例集（ガイドライン）作成

→JBAとしての取り組みであるため、JBAユース育成・指導者養成部会が作成

周知方法（暴力的行為および暴言をテクニカルファウルの対象とする）

組織として 2月16日 全国専務理事連絡会議（全国への協力依頼）

※JBAそしてPBAの協力で暴力暴言根絶に取り組んでいきたい。

審判員へ 2月24日 全国審判長会議（審判員への発信および協力依頼）

- 指導者へ
1. TeamJBAを通して、チーム登録・コーチ登録に対し通知。
 2. JBAアンダーカテゴリー部会から都道府県アンダーカテゴリー部会へ通知。

各種問題発生？

JBAとして「暴力暴言根絶」に向けた取り組みは最優先課題のひとつであるため、実施後様々な修正が予想されるが、JBAの姿勢を示すため実施したい。ただし、審判員がテクニカルファウルと判断し、さらに失格退場とすることは非常に大変な事です。組織としてのバックアップをよろしくお願いします。